

13.コスト削減計画

(1)イニシャルコストの削減

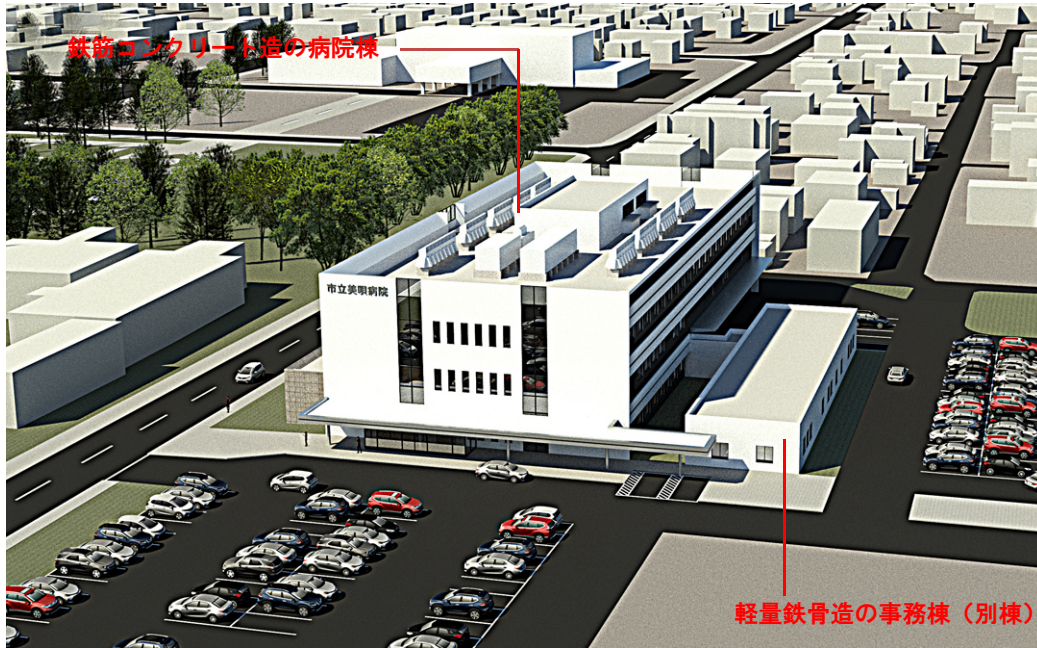
- ①物価変動に対応した構造体の採用
 - ・昨今の急激な物価上昇に配慮し、病院棟の構造体は、上部躯体は鉄筋コンクリート造、基礎構造は地盤改良を採用します。今後の実施設計、発注段階においても物価状況を注視していきます。
- ②実勢単価や仕様調査に基づく価格の設定
 - ・類似物件の実勢単価や仕様調査に基づいて適切な工事単価を設定することでコスト削減を行います。
- ③軽量鉄骨造の別棟を設けることによるコスト削減
 - ・事務棟部分に平屋建て軽量鉄骨造を採用することにより、大幅なコスト削減を図ります。軽量鉄骨造は将来変化する医療ニーズへの対応が容易で、増築や減築なども可能とします。
- ④合理的な構造計画
 - ・病院棟の柱スパンは 8.5m×6mのコンパクトな形状で均一スパン割で単純な長方形とすることで、偏心の少ないバランスのよい計画とします。矩形とすることで、壁の長さが短くなり、躯体量の削減を図ります。
 - ・階高については、十分に設備検討を行うことで無駄のない最小限の高さとし、躯体数量の削減に努めます。
- ⑤合理的な仮設計画
 - ・躯体工事時期を春～秋に設定することで、施工性を向上させるとともに、採暖費用の不要な計画とします。
 - ・冬期の外構工事は除雪など工事に障害が出るため、冬期期間は工事範囲を最小限とします。
- ⑥詳細の標準化、モジュール化
 - ・窓や扉の大きさをできるだけ統一し、標準化を図ります。

(2)ランニングコストの削減

- ①空調負荷の低減
 - ・大幅に日射負荷低減を可能とする東西軸の建物配置とし、空調負荷の低減によるコスト削減を図ります。
- ②維持管理費の削減
 - ・外壁タイル及びガラスは、自浄作用のあるものを採用し、清掃費用を削減します。
 - ・床仕上材のビニルシートは、ワックスレスのものを採用するとともに、汚れが目立ちにくい色を選定することで、メンテナンス費用の削減を図ります。
 - ・設備機器、内外仕上材などは、高耐久長寿命のもの、メンテナンスフリーのものを積極的に採用し、維持管理、修繕コストを削減します。

イニシャルコストの削減手法 (単位：千円)

工事	標準的な工事金額	コスト削減による減額	差額	減額要因
建築工事	1,546,000	1,425,000	121,000	
仮設工事	83,000	79,000	4,000	・凹凸の少ない外壁面積の削減 ・ロングスパン構造による柱の削減
躯体工事	626,000	575,000	51,000	
内外装工事	531,000	503,000	28,000	・建具種類を限定し、規格を標準化
建具工事	306,000	268,000	38,000	
電気設備工事	555,000	466,000	89,000	・実勢価格の把握、汎用品の採用
機械設備工事	957,000	850,000	107,000	・実勢価格の把握、汎用品の採用
昇降機設備工事	48,000	48,000	0	
病院棟 合計	3,106,000	2,789,000	317,000	
5,972 m ²	520千円/m ²	467千円/m ²	53千円/m ²	
事務棟（別棟）工事	230,000	126,000	104,000	・平屋建て軽量鉄骨造による減額 (RC造と軽量鉄骨造の金額比較)
443 m ²	520千円/m ²	284千円/m ²	236千円/m ²	
合計	3,336,000	2,915,000	421,000	



※イメージ図は基本設計時のものです。 今後、変更となる場合があります。



自浄作用のあるガラス



防汚タイル